

知恵の環館

— 絵画コレクション — ④



明治三六、八、二九、福田幸彦 誕生ノ朝 五十余年前ノ追憶 誕辰：誕生日のこと

明治38年5月から7月にかけて、青木繁と福田たねは再び房総半島を訪れる。2人が出逢って、2年が過ぎていた。この間青木は、第9回白馬会に「海の幸」などを出展、たねも太平洋画会に「逝く春」、「習作」を出展し精力的に創作活動を行っていた。そして、たねは青木の子を身籠っていた。同年8月29日、

滞在先だった茨城県伊讃村（現在の茨城県筑西市）の玉之井旅館で、幸彦（後の蘭童）を出産する。幸彦とは、日本神話にちなんで命名されたものであるといわれている。今回紹介するスケッチは、幸彦が生まれた直後を描いたもので、青木の甲斐甲斐しい様子が醸し出されている。だが、一児の父になったとは

いえず、青木にたねと幸彦を支えられるような経済力がなかったこともあり、2人が入籍することはなかった。そのため幸彦は、戸籍上たねの父である福田豊吉の子として届けられることになった。その後、明治40年1月、3人はたねの実家に身を寄せ、さまざまな支援を受ける。青木は五行川沿いの黒崎家の一間をアトリエとし、このとき描かれたのが「わだつみのいろこの宮」である。そして同年3月、その作品を東京府勸業博覧会に出品するため上京する。これを最後として青木は、たね、幸彦と会うことはなかったとされる。

幼少期の幸彦は福田家で育てられ、実の父母について知ったのは、叔父の福田実を頼って上京してからのことであつた。その後、幸彦は尺八演奏家・作曲家福田蘭童として名をはせる。料理や魚釣りにも長しるなど趣味も多彩で、技芸に秀でた点では間違いない。青木の血を受け継いでいたといえる。

しまたかしの 自然の芳賀 46



オオヒカゲ

チョウ目ジャノメチョウ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所:町内

分布=北海道～九州
 生息地=湿原や樹林周辺
 時期=6～7月
 発生=1回/年
 食性=カヤツリグサ科のカサゲやテクリスゲ
 大きさ=開帳80mm(羽を広げた最大値)
 特徴=大きな体で緩やかに飛び回るが、人の気配に敏感ですぐに木の陰に入る。表面は前羽に1～2個、後羽に5～6個の黒斑点があり、裏面に眼状紋がある。地色は表が淡褐色で裏が淡黄褐色である。

編集後記 ● 広報はが2月号

□2月3日は節分。町内各寺社によって福(豆)まぎの開始時間が異なっていて、複数の福まき会場を訪れることができます。「福はく内、鬼はく外」寺社を巡って「福」をたくさん拾ってみてください。

□今年の恵方は北北西。家は北北西。家に帰って恵方巻があつたら、なんとなくその方向を向いて食べることでしよう。

(Y)



▲かしの森公園

◎編集 芳賀町広報広聴委員会
 ☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
 ◎発行 芳賀町企画課
 栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
 ◎芳賀町ホームページアドレス
<http://www.town.haga.tochigi.jp>
 ◎芳賀町の携帯サイトはコチラから➡

